

# さくらほっと NEWS

vol.65  
令和6年冬号

名市大病院さくらほっとNEWS

vol.65 令和6年冬号

発行/名古屋市立大学病院 発行責任者/院外広報誌編集会議(年4回発行)  
〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 TEL 052-858-7116(経営課)

## X線防護衣のインナー補助具の開発 ~私たちが健康であれば、皆様により良い医療を提供できます~

消化器内科、肝・膵臓内科が専門とする高度内視鏡治療は、長時間の内視鏡処置に加えX線を併用することが多いです。X線から私たち医療者も被ばく(「職業被ばく」と呼びます)するので、それをなるべく減らすため放射線防護衣を着用します。その重さは3-7Kgで、朝9時から長いときには夜11時までこの防護衣を常時着用します。その影響で、私たちは肩こりや腰痛(MSDs)に苦しんでいます。実際、79.1%の内視鏡医がMSDsを1年以内に自覚し、内17.3%が業務離脱を余儀なくされているというデータもあります。

そのMSDsを軽減するために何かできないか?ということで、私たちが働きやすくするための学問の「人間工学(産業医科大学 榎原教授)」、モーメントを応用した荷重分散を行う「機械工学(法政大学 山田准教授)」専門家と医工連携して、X線防護衣インナー補助具を開発しました(国際特許申請中)。私たちの健康を守ることは次世代へ培った技術を継承し、より良い医療を提供することにつながります。また同様に放射線防護衣を長時間着用する他の診療科(循環器内科、放射線科、脳神経内・外科、整形外科など)にも応用できます。

この活動は日本消化器内視鏡学会の附置研究会にも採択され(内視鏡関連MSDs予防のための人間工学的対策研究会: <https://www.jges.net/conference/2024-81715>)、本学代表として消化器・代謝内科学の堀寧助教が事務局として活動中です。皆様により良い医療を継続して提供できるよう、これからも精進いたします。



このインナー補助具は体格に応じて調整可能で、肩にかかる負担を30%にします!

## ドクターカー 名古屋まつりへの派遣実施

第70回名古屋まつりにおける医療救護体制の強化を図るため、名古屋まつり協進会からの依頼に基づき、当院からドクターカー2台を派遣しました。

名古屋まつりは、2024年10月19日(土)及び20日(日)の2日間実施されましたが、19日(土)は天候等の都合により行列(パレード)が中止となったため、派遣は20日(日)のみでした。

派遣先は2箇所の救護所で、①名古屋市役所に設置する救護所に「ドクターカー(乗用車タイプ)」を、②サカエヒロバス付近に設置する救護所に「ドクターカー(救急車タイプ)」を配置し、それぞれの車両に医師1人、救急救命士1人の2人1チーム編成で臨みました。

ドクターカーには、観覧者等のうちで重症患者が発生した場合の初動対応を任されていたが、両救護所ともにドクターカーが出動する規模の事案は発生することなく、軽微な体調不良や怪我への対応のみで派遣任務を終えました。

当日はディズニーパレードも行われて大盛況であったため、ドミノ倒しなどによる多数の外傷患者が発生する可能性もありましたが、救急医等を乗せたドクターカーを配置したことで、来場者にも安心していただけたように感じます。

救急・災害医療に力を入れている病院として、引き続きチーム一丸となってドクターカー運用に邁進してまいります。



派遣したドクターカー(救急車タイプ)とドクターカー隊員



なごや先端研究開発センターの関係者

名市大の  
なごや先端研究開発センターを  
ご紹介いたします .....2

X線防護衣のインナー補助具の開発  
~私たちが健康であれば、  
皆様により良い医療を提供できます~ .....4

名市大病院のチカラ Vol.33 .....3

ドクターカー名古屋まつりへの派遣実施 .....4

## 保険証等確認専用窓口を設置しました

令和6年11月5日(火)より、新たに保険証等確認専用窓口を設置しました。従来の保険証はもちろん、マイナ保険証にも対応が可能です。毎月の初回受診日には必ず保険証の確認が必要となりますので、ぜひ専用窓口をご利用ください。



マイナちゃんも窓口PRのために駆けつけてくれました!

# 名古屋市大のなごや先端研究開発センターをご紹介します

名古屋市立大学では、令和5年12月より新たになごや先端研究開発センターを開設しました。「国際的な研究拠点の形成」、「多様な臨床研究の活性化」、「世界レベルの研究者の育成」、「行政・地域課題研究の促進」を4つの柱として、社会課題を解決し、よりよい社会の構築に寄与することを目的として、なごや共創研究基金の活用により研究活動を推進しております。名古屋市立大学の研究力をさらに向上させ、研究成果を世界に発信することで、世界をリードする大学への発展を目指すとともに、成果を広く社会に還元し、地域の発展に貢献します。



## なごや先端研究開発センターの使命とは！？

なごや先端研究開発センターの使命は、「地域から地球規模に至る社会課題を解決し、よりよい社会の構築に寄与する」ことです。100億円規模を見込むなごや共創研究基金を活用して、研究力強化に努め、世界への発信と地域への貢献に取り組めます。

## 臨床研究をより活発に行う附属病院群を目指して

大学病院には医薬品・医療機器や医療技術の研究開発に取り組み、医療の発展に寄与することが求められており、当院においても数多くの臨床研究が行われています。臨床研究とは、人を対象として行う研究の総称になり、新しい医薬品・医療機器、新しい診法や治療法の有効性や安全性を評価するために行われます。そこで、なごや先端研究開発センターの柱の1つである「多様な臨床研究の活性化」では、5つの事業を推進しており、その一部を紹介します。

| 「多様な臨床研究の活性化」で実施する事業の一覧(一部抜粋)              |   |
|--|---|
| 事業   | 事業内容  |
| ①臨床研究の実施奨励                                 | 新たに臨床研究を行うにあたって、研究奨励費を支給します                   |
| ②附属病院群の特色ある取組み支援                           | 附属病院群全体の研究力強化を目的として、各病院の特色ある取組の実施にかかる経費を補助します |
| ③ARO(Academic Research Organization)支援体制構築 | 臨床研究を支援する組織であるAROを強化するため、臨床研究支援人材の雇用を進めます     |

市立大学病院を中心とした臨床研究の実施・支援体制を構築し、附属病院群が一体となって質の高い臨床研究を推進していきます。また、臨床研究以外にも、本学の研究の知見を地域社会に還元し、産学官で共創しながら地域の発展・成長により一層貢献してまいります。

# 名古屋市大のチカラ Vol.33

## 小児泌尿器科

## 小児のロボット手術など最先端の医療に取り組んでいます

小児泌尿器科は腎・尿路・生殖器の先天性疾患に対応する診療科です。新生児、乳幼児、学童が中心ですが、思春期や成人(AYA世代)の先天性泌尿器科疾患の治療も行っています。「水腎症」、「膀胱尿管逆流」、「停留精巣」、「尿道下裂」などの手術治療を専門的に行っています。名古屋市立大学病院として、東部医療センター、西部医療センター、蒲郡市民病院などに小児泌尿器科医師を派遣して地域医療に貢献しています。

私たちは全国に先駆けて、欧米の最先端の医療施設で、小児にやさしい低侵襲手術である腹腔鏡手術とロボット手術を習得し、わが国で初めて成功させました。最初は自費医療や先進医療でしたが、安全で痛みの少ないこれらの手術を厚労省が認めてくれ、徐々に保険医療になっています。小児に対するロボット手術ができる施設が全国でも限られているため、名古屋市内

だけでなく、東海地方全体から小児泌尿器科疾患で苦しんでいる患者さんが受診して下さっています。そのような事情のためエントリーしてから手術まで少々お待ちいただくこととなりますが、わが国の未来を担う子どもたちに確実に安全な医療を提供できるよう、日々精進を続けて参りたいと思います。



(前列左から)西尾講師、水野准教授、林教授、とグループメンバー。

## 臨床遺伝医療部

## 遺伝カウンセリング外来が開設20周年を迎えました

臨床遺伝医療部は「遺伝カウンセリング外来」を設置しています。2004年に設立され、全国でも長い歴史をもつこの外来は、今年で20年目を迎えました。

遺伝カウンセリングとは、染色体や遺伝子などの遺伝に関する疑問、不安、悩みなどをお持ちの方に対して、科学的根拠に基づいた正確な情報をお伝えする場所です。その上で、十分なお話を伺いながら、問題を解決していただけるように心理面や社会面も含めた支援を行います。当外来には、遺伝カウンセリングを専門とする臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーが多数在籍しています。妊娠前・妊娠中の相談や遺伝性のがんに関する事など、幅広い分野に対応しています。症状がなくても遺伝に関する悩みなどをお持ちの方であれば、どなたでも受診可能ですので、お気軽にご相談ください。

また当科では、関連学会での発表、地方会の主催、臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーの修練を積むための研修の受け入れなどもしており、研究や教育にも力を入れています。今後も東海地区の遺伝医療を牽引する施設の一つとして、質の高い遺伝医療を提供し、地域の皆様の健康を守るお手伝いをしていきます。



前列中央左: 杉浦真弓教授、前列中央右: 齋藤伸治教授  
その他臨床遺伝医療部のみなさん